

政策への提言

“つながり”を継続し、生み出す高齢者施策



【生活支援コーディネーターとして取り組む“つながり”】

	課題・資源	課題・資源から考えられる必要な“つながり”
第一層	課題：独居高齢者の増加と地域とのつながりの減少 ：認知症高齢者に対する地域住民の理解不足 資源：地域団体、企業・店舗等 地域ケア会議ガイドライン・地域支え合い会議・協議体	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資源を把握し地域課題に応じた周知による地域住民と社会資源のつながり ・支え合い会議での情報を把握し、資源を新たに開発するためのつながり ・地域住民の意欲を担い手として生み出すためのつながり ・地域団体及び関係団体との情報共有によるつながり
第二層（ふたば）	課題：マンションや集合住宅が多いことで、表面化する高齢化や住民同士のつながりの希薄化 課題の多様化 資源：企業・店舗、居場所（サロン等）	<ul style="list-style-type: none"> ・困りごとを相談し助け合える住民同士のつながり ・居場所（サロン）から生まれる参加者のつながり ・地域住民の課題を解決するための企業とのつながり ・地域の困りごとを一緒に把握し共有するための地域住民とのつながり
第二層（しなの）	課題：地域が広く買い物・移動に困る 資源：地域団体・企業・店舗等	<ul style="list-style-type: none"> ・困りごとを相談し助け合える住民同士のつながり ・住民の困りごとを把握するための地域住民・団体とのつながり ・住民の困りごとを解決するための様々な資源とのつながり ・住民の移動手段を確保するためのつながり
第二層（中央東）	課題：独居高齢者の孤立・孤独 認知症高齢者の増加 資源：地域団体・商店街・企業・店舗等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民との交流、関係性作り ・地縁団体・関係機関との連携 ・地域での見守り体制づくり

【活動進捗】

		活動計画（第8期瀬戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画）			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第一層（市全域） 【目標】 孤独にさせない地域でのつながりの構築	計画	・生活支援 CN 配置の目的（生活支援体制整備事業）の周知活動 ・地域資源の活動把握と継続支援 ・住民をつなぐ地域資源のマップづくり	・住民をつなぐ地域資源のマップの活用 ・孤独にさせない、楽しむための移動支援ネットワークづくり	・つながりの継続を支える人づくり ・第2層圏域でのスムーズな事業化に向けての働きかけ	・事業評価から見える継続のための課題把握 ・令和2年度～4年度に実施してきた取り組みを地域住民や地縁団体、企業等を対象に報告する場を設ける
	進捗状況 及び 課題	<p><地域資源マップ（地域ささえあい MAP）の作成></p> <p>・地域資源マップ（地域ささえあい MAP）づくりのため、居場所への訪問と聞き取りを行い社会福祉協議会ホームページ内の Google マップに掲載しました。あわせて、生活支援コーディネーターの紹介ページも作成しました。</p> <p>→コロナ禍で活動を休止したり、活動内容を変更するところが多くみられました。今後も、再開に向けて新型コロナウイルス感染予防対策のアドバイスを実施するとともに、地域資源の活動把握と継続支援及び住民をつなぐ地域資源のマップづくりを行っていきます。</p> <p><瀬戸市資源マップ つながり やっぱり おもいやりの作成></p> <p>・令和3年3月に住民とお弁当の配達事業所をつなぐ地域資源のマップを 2,000 部作成しました。令和3年度は①ごみ処理・大掃除（介護保険以外）、②地域での習い事、③移動販売、④タクシー・介護タクシーを候補として情報収集を行っています。</p> <p>→今後も地域資源の把握を行うとともに、地域課題に応じた地域資源マップの作成のための意見の募集を地域包括支援センターなどに行っていく、資源マップを作成し地域課題の解決のために活用していきたいと考えております。</p> <p><移動支援ネットワークづくり></p> <p>・第2層生活支援コーディネーターとの意見交換の中で、地域包括支援センターから高齢者の外出のきっかけとなるような特典や割引情報をまとめた資料の要望がありましたので、参考資料としてとりまとめていきます。また、移動支援事業でのグループワークでは女性は大型スーパー、男性はホームセンターを外出の候補としている割合が高いという情報がありました。</p>			

	<p>→外出機会のきっかけとなる情報提供や店舗への働きかけなどを通じて、高齢者の外出機会の創出につなげていきます。</p> <p><第2層生活支援コーディネーターとの連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2層生活支援コーディネーターとの定期的な情報共有の中で、ログカメラの丘（陶原連区）での居場所づくり、大橋運輸(株)（長根連区）での地域講座、塩草サロン（東明連区）での居場所への取り組みなどの把握を行いました。また、裁縫が得意な高齢者が地域活動への取り組みに興味を示しているといった、地域活動の担い手に関する情報もありました。 <p>→第2層生活支援コーディネーターと定期的に地域の居場所や担い手などの情報共有を行い、社会資源とニーズのマッチングに務めます。</p> <p><地域包括支援センターとの連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センター担当者会議に出席し、地域課題に効果的に結びつく瀬戸市社会資源マップへの情報を求めました。認知症地域支援推進員からは、認知症カフェに行く移動手段がわからないといった意見をいただきました。 <p>→社会資源の情報を提供する際には、場所を把握しマップに表示するだけでなく、最寄り駅やバス停の情報、徒歩での時間や距離など、ニーズに合わせて移動手段に対する具体的な情報を把握していきます。</p> <p><瀬戸市社会福祉協議会地区社協における企画事業への支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月29日（木）に開催された地区社協会長連絡会に出席し、地区社協の事業実施状況について把握を行いました。特に敬老事業への助成金が廃止後の状況について確認できました。その結果は、①敬老会は実施せず、地域の福祉課題への取り組み（居場所や交流）を検討している地区が2地区。②敬老会は実施せず、高齢者に祝意を表す取り組み（記念品や広報活動等）を検討している地区が9地区。③内容を縮小（主に対象者の限定）して敬老会の実施を検討している地区が7地区。④今までと同様の敬老会の実施を検討している地区が3地区となっていました（複数回答あり）。その他、今まで実施していた事業についても、新型コロナウイルス感染症の影響から約半数の地区社協は事業再開の目途がついていない状況でした。 <p>→高齢者がつながる機会でもあった敬老会の方向転換がなされていることが確認でき、新型コロナウイルス感染症に伴う事業への対応ともに、各地区模索している状況が伺えました。瀬戸市社会福祉協議会では地域の福祉課題解決のために地区社協が実施できる企画事業を設けているため、生活支援コーディネーターとして事業の立案にあたり他の地域の事業紹介や事業に活用できるボランティア団体の紹介などの支援を行っていきます。</p>
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

		活動計画（第8期瀬戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画）			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第二層（ふたば） 【目標】 企業・店舗の多さを活かし、住民同士がつながりを持ち生活できる地域づくり	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・企業や店舗を対象に聞き取りを実施 ・業種別にリストアップ。 ・サロンでの住民への聞き取り ・地域の現況調査（人口・世帯・年代等） ・他市町の調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民を対象としたニーズ調査 ・地域団体との情報共有 ・企業と地域のマッチング ・事業の企画、検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル事業の検討、実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル事業の評価 ・評価を基にした事業の改善や新規事業を検討、実施
	進捗状況 及び 課題	<p><地域の困りごとと担い手のマッチング></p> <p>・水南連区にお住まいの高齢者の方で、裁縫が得意という情報提供が瀬戸市社会福祉協議会の職員からありました。幼稚園でのクリスマス会のプレゼントを作成する等、裁縫技術はかなり高いとのことでした。</p> <p>また、ボランティアセンターでは、障害のある方から定期的に服のリメイクの依頼があり、裁縫が得意なボランティアさんとマッチングを行っていました。しかし、ボランティアさんが体調を崩してしまい、新しい方を探している最中でした。</p> <p>→担い手となる高齢者の方は、介護保険を利用されている方のため、担当者会議にお伺いし、服のリメイクを依頼させていただいたところ、引き受けてくださいました。体調や本人の意向を尊重し活動につながるようにしていきます。このような、個人のニーズに対応する必要性も多く聞かれることから、今後は地域住民の得意なことを把握し、地域の困りごとに対応ができるような仕組作りができればと考えています。</p> <p><地域包括支援センターとの連携></p> <p>・高齢者が外に出るきっかけの一つとして、ふたば地域包括支援センターから、65歳以上を対象とした特典や割引のあるお店について、一覧化されていると良いのではないかという話がありました。資源把握の一環として、効範連区を中心にスーパーやドラッグストア等を調査したところ、ある特定の日に会員証を提示すると5%offになる等のサービスがあることが分かりました。コロナ禍ではありますが、外に出る良いきっかけになると思われるので、調査結果について皆様にお示しができるようにしていきます。</p>			

		<p><集まる機会の減少></p> <p>・ふたば圏域はご近所交流サロンを中心によりどころが19か所あるが、緊急事態宣言の影響もあり、全てのよりどころで開催回数の減少や中止となりました。効範地域力との関りの中で、昨年度のご近所交流サロンの開催状況について、実施報告書をご提供いただきました。</p> <p>コロナ禍の中で全体的に開催回数や参加人数が減少傾向にあり、内容についても屋外での開催や二部制にする等の工夫が見られました。新しいつながり方としても電話を活用した安否確認を行っている町内もありました。サロン参加者からの意見としては、「コロナで行くところがない」「おしゃべり相手がいない」「家で過ごす時間がいっぱい」というような意見があり、サロン再開を望まれる声が多くあったとのことでした。</p> <p>→ご近所交流サロンに聞き取りを行ったが、感染者が増加していたこともあり、8月9月を中止としたとのことだった。10月からは再開予定の場所も多くあると思われるので、活動状況について把握をしていきます。</p>
--	--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

		活動計画（第8期瀬戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画）			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第二層（しなの） 【目標】 買い物・移動への困りごとを解決し、住民が社会参加できる地域づくり	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・企業や店舗など様々な社会資源への聞き取り ・地域活動の把握 ・他市町の調査 ・地域住民の意識調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民を対象としたニーズ調査 ・協議体を活用した地域団体への情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域団体や企業等、様々な社会資源が連携した事業の検討、実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の様々な団体が連携した事業の実施、評価
	進捗状況及び課題	<p><新たな事業の企画とコロナ緊急事態宣言による中止></p> <p>・東明地区社協では、市内にある7ヶ所の集会所を活用して、コロナ禍で外出や運動機会の減少している高齢者向けにヤクルトの管理栄養士が講師をしてくださるヤクルト健康教室の実施を進めていた。</p> <p>実施にあたっては、コロナ禍での3密回避の対策で人数を制限し、連区を3地域（東部・中部・西部）に分けて実施するなどの工夫を行った。しかし、コロナの緊急事態宣言の延長に伴い、第1回目（9/16）の実施は、中止となった。</p> <p>→地域活動の再開に向けて、動き出した最中、コロナの影響による緊急事態宣言の発出・延長が、地域活動の中止・延期につながり、役員等のモチベーション低下など大きな影響を与えている。地域団体の集まり等に参加し、地域活動の必要性を伝え、再開に向けて支援します。</p> <p><地域包括支援センターとの連携></p> <p>・しなの地域包括支援センターと定期的に意見交換を行った。初期相談時に、認知症状が悪化しているケースが多くあり、課題対応に苦慮するケースが多くあることを把握した。</p> <p>→地域交流の機会がコロナ禍の影響で少なくなっており、認知症の早期発見につながらないケースが多く見受けられます。地域包括支援センターの抱えている課題を共有し、地域に近所の支え合い・見守りの必要性を伝えていきます。</p> <p><移動支援事業への関わり></p> <p>・高齢者福祉課が実施する移動支援事業で道泉連区のグループワークで具体的な外出先の候補が上がってきたため、候補先である企業（ホームセンター等）を訪問し、情報提供・意見交換を行った。</p> <p>→ 外出先の候補にあたり、企業の協力が得られるよう情報収集を行います。また、企業が高齢者向けに行っている取り組みの把握や認知症施策への取り組みのきっかけづくりを図ります。</p>			

		活動計画（第8期瀬戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画）			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和2年度
第二層（中央東） 【目標】 独居高齢者の孤立を防ぐために支えあう地域づくり	計画	・独居高齢者の実情、意見、ニーズの把握 ・地域資源の状況把握 ・居場所への訪問、調査	・居場所の周知、情報共有 ・地域住民、地縁団体、関係機関との連携の強化	・地域で活躍できる担い手の発掘 ・高齢者が活躍できる場づくり	・独居高齢者の孤立、早期発見、対応につなげる体制づくり
	進捗状況及び課題	<p><地域包括支援センターとの連携></p> <p>・包括支援センター中央東の地域ケア会議に出席しました。認知症で一人歩きをする方が地域の見守りの下で安心して過ごせるかをテーマに話し合いました。地域住民の方にも参加いただいたが、認知症について理解されていないことや、対応の仕方がわからないといった声もあり、認知症についての理解促進が必要と感じました。</p> <p>参加された民間の企業の方から地域貢献がしたいとの声もあったので、日にちを改め店舗（ココカラファイン薬局）へ、ニーズの聞き取りに伺いました。骨密度の測定や健康講座など行っているとのことで、希望があれば出張もできるとのことでした。</p> <p>→認知症理解の周知は包括と連携を取りながら進めていきます。</p> <p>→地域貢献について、地域団体のサロンやよりどころ等の居場所にも周知していきます。</p> <p><居場所・サロンの開催状況></p> <p>・ワクチン接種を2回終了した方も多くなり、6月解除後に活動を再開したところが多くありましたが、また緊急事態宣言が発令され、再度、開催を中止したところも多くありました。感染者の年齢が低下していたり、家族感染も多く、感染していても症状がなかったり、2回接種済でも感染したりと感染形態も変わってきており不安に思う方も増えてきています。</p> <p>→地域交流も少なくなってきており、認知症予防、フレイル予防の促進のために協働していきます。</p> <p><高齢者移動支援事業の関わり></p> <p>・道泉地区がモデル地区となり、地域力が行っている道泉ワークショップに参加し地域住民への説明、移動先の案の聞き取りを行いました。女性は大型スーパーなどの買い物等の意見が多い傾向で、男性はホームセンターを希望される方が多くありました。男性の外出の機会の創出として、道泉ではホームセンターを行き先の候補としたため、市内のホームセンターへ聞き取りに伺いました。市内には数か所ホームセンターがありますが、話の中では、「地域貢献は頭にはあるが、人材に限りがあり、なかなか行えていないのが現状」とのことでした。「機会があれば</p>			

		<p>ばできるかはわからないが考えていきたい」という声も聞かれました。</p> <p>→計画を進めていくうえで、企業と関わりを持ちながら連携が取れるように進めていきます。</p>
--	--	-------------------------------------------------------------------------------------------